

# 年金財政検証における経済シナリオの検討

小澤 正典<sup>1</sup> (慶應義塾大学理工学部), 浦谷 規<sup>2</sup> (法政大学理工学部)

## 概要:

日本での年金システムにおける財政の健全性を調べるために、厚生労働省は5年に1度の検証を行っている。その検証が、2014年の6月に発表され、その検証においては前回2009年度のものより様々な経済状況や雇用状況を考えた検証シミュレーションがなされている。しかしながら、行われているシミュレーションは様々な条件が確定的な場合であり、一般に行われるような確率的な場合についての検証がなされていない。そこで、本研究では、この検証で配布されている結果を利用してモデルを構築し、そのモデルを用いて様々な場合のシミュレーションを行うことにより、年金システムの特徴であるスライド調整の効果について考察する。

キーワード：年金システム，スライド調整，シミュレーション，経済シナリオ

## 1 はじめに

日本の年金システムは、国民年金と厚生年金が大きな部分を占めている。この厚生年金における給付は定額部分と比例部分に分かれ、その定額部分は国民年金と同等のものになっていて基礎年金とも呼ばれている。その保険料は、国民年金においては一定金額を賃金上昇率に応じて変化して、そして被保険者は日本に住んでいる人が対象となっている。また、企業に勤める人の厚生年金の保険料は企業が半分負担し、その保険料は報酬額に対して定率となっている。その厚生年金の保険料には基礎年金(厚生年金定額部分)のための保険料とその被扶養者としての配偶者の国民年金の保険料が含まれている。さらに、人口構成の変化に伴う労働者人口の減少と受給者人数の増加を踏まえて、年金財政の頑健性を高めるために、年金の給付額を変化させその支出をコントロールするスライド調整が導入されている。このように、システムが単純な仕組みになっていないため、その年金システムの健全性についての議論が数多くなされている [2],[4]。また、スライド調整システムの効果の測定した議論もなされている [3][9]。また、人口構成の変化やその影響についても議論がされている [1][8]。本研究では、年金の財政モデルを作成して、厚生労働省における2014年の財政検証 [6] で公開された結果をもとにして、モデルにおけるパラメータを定めることにより、スライド調整システムについて考察をした。年金システムの財政としては、積立金の保持することにより、完全な賦課方式の場合より様々な経済的な変動を吸収させるとが可能となる。したがって、その積立金が様々な経済的な状況の変化により、どのような影響を受けるのかを調べておくことが重要であるのでそれらについて考察する。

<sup>1</sup>慶應義塾大学理工学部：〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1 (ozawa@ae.keio.ac.jp)

<sup>2</sup>法政大学理工学部：〒184-8584 東京都小金井市梶野町 3-7-2 (uratani@hosei.ac.jp)